

## ニ エクスカーション案内記

(札幌近郊班)

近郊コースは郊外のすがすがしい空気を吸つて、2日間にわたるうす暗い会場での熱論ですつかり消耗した精気をとりもどし、スカツとさわやかな気分で帰つてもらおうという計画をかねての見学旅行である。参加者は案内係を含めて37名で、前日の雨もあがつた快よい天候に恵まれて8時丁度テレビ塔下を道東班とともに出発し、まず北農試を見学。庁舎、ファイトトロンでは“建物がよくなると仕事は進まなくなる”などの悪口がでる。草地センターで道東班と手を振つて別れ、雪印種苗へ。近郊班は道路のよいところばかりを通る関係上、北海道のソロバン道路も経験してもらうために裏街道を經由。三浦場長の案内で育種、原種圃、栽培試験圃、ホル種牡続の肉用肥育試験などを見学。みごとに生育したアルファルファに感嘆したり、ボンキンの大きさに驚いたり、ボンキンの前では記念撮影が盛んであつた。アイスクリーム、トウキビのさし入れにいたく感激しながら宮北牧場へ。宮北牧場はアーバインアンガス種主体の牧場であるが若い経営者から入植後7年で大牧場に発展した経過を聞くうちに道外の人には新開地北海道との印象がすよく残つたようである。

支笏湖で樽前山のけむりをみながらコツプ一杯のビールとチツプ井の昼食をとり記念撮影したのち早来へ。まず竹田牧場を見学。共進会で数多くの優等賞をとつたすばらしい牛をみながら、不毛の地といわれた火山灰地に入植して以来の苦勞話をきいていると不撓不屈の開拓魂とはこのことかとおつよい感銘を受る。老牛1頭から出発した金川牧場でも同様で、搾りたての牛乳とバター付イモを味わいながら予定時間をかなりオーバーするまで話がはずんだ。

金川牧場で見学はすべて終わり帰路につく。学会疲れの仮眠をとるうちほぼ予定通り6時30分テレビ塔下に到着、次期大会での再会を約して解散した。

今回の見学旅行で見学先の場長、経営主の方々から歓待を受け、多忙中のところ長時間にわたつて非常に熱心に、懇切ていねいな説明を受けたことを案内係として心から感謝する次第である。

なお、旅行中のスナツプ、記念写真は後日参加者全員に郵送した。

北海道農業試験場草地開発部

山下良弘